

諸法山菅谷寺 解体修理工事



完成写真 平成 15 年 9 月

諸法山菅谷寺本坊は、明和七年(1770年)頃に建てられたと伝えられる。以来、二百有余年もの間、風雪に耐えつつ法燈を見守り続けてきたが、老朽化が進み改築することとなった。

既存建物は、外部、特に茅屋根の磨耗が著しく見られた他、当初の部分と後の増改築との取合い部に劣化が見られた。

設計にあたっては、本坊の文化的な価値を考慮し、建物の基本的な配置を変えず、茶の間、座敷を中心とした範囲の部材は当初の位置に再

用した。但し、将来にわたり住み続けられる建物となる事を基本として、食堂や水周り部分は居住に必要な便益を図る整備を行った。



解体修理前の姿 平成 14 年 1 月



西側兜造の姿

屋根葺き材は茅の確保や維持管理が困難であるため、銅板に葺き替えることとした。但し、将来の茅屋根の復元に備えるため、小屋梁、桁、合掌は再用し、当初の範囲を残すこととした。平成14年秋より解体組立工事に入り、既存建物を一旦解体し、RCの基礎を設置した上に、土台を据えなおして軸部を組み立てた。新規の主要部材には「平成十五年修補の焼印を押しした。やむをえず再用しなかった部材は小屋裏に保管し、後世に確認ができるようにした。

工事は平成15年9月に竣工し、10月26日の落慶法要をむかえた。



屋根形状検討模型



建物内部写真 左：茶の間



中：和室3室



右：仏間